

緒方洪庵生誕 200 年前々夜に思うこと



巻頭言

平野俊夫*

The impressions on the eve of two-hundredth anniversary
of Koan Ogata's birth

今年は緒方洪庵生誕 200 年前々夜ということで、本号は、緒方洪庵の特集号となっている。緒方洪庵が 1838 年、170 年前に大阪瓦町（その後現在の北浜 3 丁目に移転）に設立した適々斎塾（適塾）が阪大医学部のもとであり、阪大そのものの起源であることは言及するまでもない。緒方洪庵は単なる蘭医ではなく、蘭学者、教育者でもあった。実際、適塾からは、明治維新という激動の時代に活躍した大村益次郎や橋本左内、慶応義塾を創立した福沢諭吉、日本赤十字社の初代総裁、佐野常民など多くの人材が輩出している。緒方洪庵の残した扶氏医戒之略には、医師の心構えが記載されている。そのなかに、<人の為に生活して、己の為に生活せざるを医業の本體とす>、<病者に対してはただ病者を見るべし。貴賤貧富を顧みることなかれ> などがある。彼の人間観が伺える。さらに適塾には、塾頭であった福沢諭吉による漢詩がある。

適適豈唯風月のみならんや、
渺茫たる塵界自ら天真、
世情説くを休めよ、意の如くならずと、
無意の人は乃ち如意の人

ひたむきに物事を極める心も、緒方洪庵の人生観を如実に反映したものと考えられる。

大阪帝国大学は、昭和 6 年に創設されたが、当時は昭和の不況下であり、既に京都帝国大学が設立されていたことから、<大阪に帝国大学を> という大阪人の夢の実現は困難を極めた。適塾を起源とする大阪府立医科大学長の楠本長三郎、時の大阪府知事柴田善三郎らの熱意と努力、関西財界人の全面的な支援により、大阪帝国大学は日の目を見ることになった。特記すべきは、100% 民間の資金で創設された唯一の帝国大学であるということである。現在、安易な産学連携がもてはやされているが、理想的な、純粋な産・官・学連携は大阪大学が元祖であるといえよう。医科大学出身の医師塩見政次の多額の寄付により医科大学内で運営されていた塩見理化学研究所（物理、数学、生化学）を母体として理学部が創設された。昭和 8 年には官立大阪工業大学を移し工学部が設置されたが、創設当時は医学部と理学部のわずか 2 学部よりなる最小の帝国大学であった。

このように、大阪大学は、その源流に、緒方洪庵の人間愛、<無意の人は乃ち如意の人> に表現される、ただひたむきに物事を極める心、そして、理想的な意味での産・官・学連携の精神を有し、常に先進性を重んじるとともに、諸民の心と人への優しさを有してきた歴史がある。大阪大学のモットーである、<地域に生き、世界に伸びる> はまさに大阪大学の歴史に基づくものである。



*Toshio HIRANO
1947年4月生
大阪大学医学部卒業（1972年）
現在、大阪大学大学院 医学系研究科長
・医学部長 教授 免疫学
TEL：06-6879-5111
FAX：06-6879-3019
E-mail：hirano@molonc.med.osaka-u.ac.jp

日本の旧国立大学は、国立から、大学法人へ移行し、国立大学時代とは様変わりした歪な競争的原理のもとに揺れ動いている。国家 100 年の計は教育にあることは、今更論じるまでもない。また国力は科学技術の高さと芸術の豊かさに現れるものである。政府も科学技術立国を標榜して科学技術基本計画なるものを策定している。しかし、今ほど大学が大学

の本来の姿を失いかけている時代はない。大学とは、
いうまでもなく<学問と教育の府である>。アカデ
ミズムが大学の基本である。にもかかわらず、今の
大学人は安易な産学連携に走る、目の前の成果主義
に走る、効率主義に走る。過度に応用研究に傾斜し
基礎的研究を軽視する傾向にあるのではないか？
アカデミズムの心をともしれば忘れ、物事の本質を
見失いつつあるのではないか？ 本年4月に医学系
研究科長・医学部長職を拝命して、つくづく考えて
しまう今日このごろである。緒方洪庵生誕200年前々
夜にあたり、今一度、阪大人は大学の使命、<大学
は学問と教育の府である>ことを真剣に考えなおす
べき時が来ているのではなからうか？ これは国の
教育行政や科学技術行政にも言えることである。国
のレベルで、大学のレベルで、大学人個人のレベル
で、アカデミズムの本質を見失わないようにしなけ
れば、日本の大学の将来はもちろんのこと、日本の
国そのものの将来もないと考えるのは単なる杞憂で

あろうか？

第3期科学技術基本計画には、生命科学の重点分
野として脳、再生、免疫という言葉が盛り込まれて
いる。脳は精神、こころの統合機能を司っているわ
けで、その重要性は言うまでもない。再生は、すべ
ての体の部品を新しいものに取り替えることが出来
るといふ観点から、夢の再生医療とし大変話題にな
っている。しかるに免疫の重要性は一般的にはあま
りよく理解されていない。免疫なくして、人はこの
世で一日足りとも生きていけない。免疫は、人がこ
の世の中で生き長らえるためには欠せない空気の一
つである。健康な長寿社会の実現のための司令塔
である。天然痘の予防接種の普及に努力を惜しま
なかつた緒方洪庵の生誕200年前々夜に、阪大に
免疫学の世界拠点が発立されたことは、阪大の歴史
の重みを物語る一つの出来事でもある。

